

宮城発・家庭教育フォーラム
急がず，あせらず，しっかりと
～父親たちの試み『おやじの会』～



平成21年2月8日(日)

せんだいメディアテーク 7Fスタジオシアター

子育てトーク

子育てサポーターリーダー	佐藤 徳美 氏
子育てサポーターリーダー	鈴木美恵子 氏
ゆりが丘親父の会	千葉 良一 氏
寺岡おやじの会	伊藤 淳 氏
お父さんたちのネットワーク	石垣 政裕 氏

後藤あい それでは、ざっくばらんに子育てトークを始めたいと思います。

今日は子育てサポーターリーダーの佐藤徳美さん，同じく子育てサポーターリーダーの鈴木美恵子さん，ゆりが丘おやじの会の千葉良一さん，寺岡おやじの会の伊藤淳さんをお願いしております。コーディネーターはお父さんたちのネットワークの石垣が務めます。

石垣政裕 初めに，ここにいらっしゃる方に自己紹介をしていただきます。まずは，名取のゆりが丘親父の会の千葉さんからおやじの会の活動について報告していただきたいと思います。名取のゆりが丘の親父の会は非常に活発に活動なさっているとも聞いており，新聞紙上でも時々見かけておりました。本日，その取り組みを伺えることを非常にうれしいと思っております。千葉さん，よろしく願いいたします。

千葉良一 名取ゆりが丘親父の会の千葉と申します。よろしく願いします。

ゆりが丘親父の会は，こういうところにあまり出てきたことがなくて，ちょっと場違いのような感じがするんですけども紹介させていただきます。

それでは，ゆりが丘親父の会のダイジェスト版を作成してきましたのでスクリーンをご覧ください。これは夏祭りのとき写真です。おやじの会がどうやってできたのかをお話します。ゆりが丘というところは名取市の中でもちょうど左の上の方に位置していて仙台の夜景が見えてきれいなところです。

ゆりが丘は新しく開発された団地です。お母さんたちはPTAなどを通じてつながりが早くからできていて私はいいなと思っていました。それではお父さんはどうか。お父さんたちはサラリーマンが多いし，夜しか会わない。または，休みしか会わないということで，隣近所の顔も分からないことが多いように思いました。何か向こうでこっちをじっと見ているおやじがいるとか，ネクタイ締めて犬を散歩させているおやじがいるとか，何かそんな感じでいました。それで，やっぱりいるんですね，地域のためにはお父さんの横のつながりが必要と思うおやじたちが何人か出てまいりました。そこで1998年に，ゆりが丘親父の会が誕生しました。当初の会員は30名ぐらいでした。

どんな集まりかというと基本的にはゆりが丘，みどり台のおやじたちで構成しています。現在，名簿上では60名おりますが，実際に活動をしているのは30名程度です。サラリーマン，単身赴

任者が多く、年代的には30代から70代と幅が広がります。最近リタイヤ組が多くて、60代の元気のいい人たちがいっぱい入ってきています。職种的にはサラリーマン、公務員、自営業、リタイヤ組と、いろんなメンバーが集まっている組織になっています。

今日、お聞きしたり、様々な文面を見たりしていると、学校系・教育系・小学系のおやじの会が多いようですが、我々のおやじの会はちょっと分類しにくいアウトローなおやじの会になっています。あえて言えば地域型で、自分たちが好きなことをやって楽しんでいる親たちの集まりです。また、活動制限のない任意の親睦団体という感じの団体です。

ホームページにも載せておりますが、発足当時の思いを紹介します。「ずっと付き合ってくれる地元の友達が欲しい。」これは素朴な本当の感情ですね。また、これも大切なんですけども、「おやじ同士が知り合いなら他人の子どもでもしかることができる。」最近はやっと人の子どもを叱れるようになりました。これが結構大切なことですね。

それから、いろいろな人と知り合いになれて情報交換ができる。地元の様々な情報、それから裏情報とかも入ってきます。それから、一番大切にしたいこととしてはあいさつの輪を広げたいと考えております。

また、子どもたちがゆりが丘出身であることを誇りに思えるまちにしたい。子どもたちがうちのまちは本当にいいところだよと思って欲しいのです。それから、お母さんたちが頑張っていますけども、お母さんたちだけに子どもを任せ切りにしないで、おやじが必要だという思いがあります。

ゆりが丘親父の会では、「自分たちが楽しんでいれば子どもたちはおのずからついてくる。」と考えております。これは昔、自分たちが小さいころに、大人が楽しそうにやっているとやっぱりうちらもやりたいよな、一緒にやりたいよなという感情を持っていました。これは会員の心の底のベースにあるものです。子どものことで悩むことがあります。そういうことがあればみんなで考えようという思いがあります。

また、恒例の夏祭りで即興でのイベントを行えば、外に出た友達にもそこで再会できる、そういうことをやってみようという思いがあります。

それから、下はなかなかPTA系とか、お母さん方ではできにくいんですけども、子どもたちと一緒に遊びながら危ないことをさせてみたい、おやじの責任の範囲でやらせたい。今これはなかなか難しいんですね、

活動内容を初めの頃はよく聞かれました。基本的には月1回の月例会をやっています。10年以上、毎月欠かさずやっています。人が少ないときも、多いときもいろいろありましたけども

毎回やっています。

では主な月例会以外の主な活動として主催行事を二つ行っています。

一つは夏祭りです。これは夏祭りといっても、盆踊りではなく音楽の夕べという音楽を中心にした夏祭りをやっています。それからもう一つ、冬のイベントですが、やき芋をつくって遊ぶ会を行っています。

それから、協力行事として公民館祭りのコーナー、大運動会のスタッフ、小学校のゆりの木祭り、当初のころは中学校の文化祭といろんなものに協力していました。

それから参加行事があります。これは大したことはないですけども、招待されますので可能な限り小学校の入学式や卒業式、音楽発表会には出るようにして、今の子ども状況を把握できるようにしています。また、支援事業としてよさこい踊りをやっています。

設立当初は、おやじの会は別にだれに知らなくてもいい、自分たちが思ったことをやっていけばいいと思っていたのですが、活動するためにはみんなに知ってもらうということが必要になってきました。そこで、最近ではマスコミ等も含めて余り制限をかけないようにするようになりました。河北新報や広報、仙台経済界、PTAの広報等に活動の様子を紹介してきました。

それから、情報発信として会報をおやじ通信ということで出したんですけども、最近ではホームページをつくりましたのでホームページでいろいろな情報を発信しています。部内についてはメールで連絡を取り合っています。他団体へも参加ということでは、うちのメンバーは自分たちだけにこだわらず、PTAとか育成会、それから各種団体に参加して活動しています。

中心となる定例会は毎月第4土曜日開催しています。場所は、基本的には公民館でやっていますが、飲み屋さんでやるとかいろいろ場所を変えています。参加費は500円と、自分の飲み物を持ち寄るというようにしています。ここが大切で、参加は自由で強制もなしということになっています。毎回参加してもいいし、半年に1回でも、年に1回でも、あと何年に1回でもいいから、やっているから来てくれよと、これが多分10年以上無理しないで続いた原因だと思います。

それから、情報交換を大事にしています。地域情報や子どもの情報、学校情報、家庭だったりします。勉強会も行っています。イベントを行っていますのでイベントの計画をやっています。ゲストも時々お呼びしまして、校長先生とか教頭先生とか、あとほかの先生方との交流も図っています。たまには町内会長さん、それからPTA会長さん、役員さんにも来ていただいて情報交換しています。最後は酔っ払ってわけわからなくなるんですけども、そんなこともやっています。

それから、他のおやじの会との交流会もあるということで、隣に那智が丘のおやじの会もありますので交流をしています。

次に、夏祭りですが、これが我々の大イベントになっています。「一年で一番長い日」と我々は言っているんですけども、これはただのイベントだけではなく、この中に我々のいろいろな思いが集まっています。基本的には人との触れ合いなんです。特に子ども。単なるイベントだと私たちは思っていない。特にテーマは決めていないんですが、みんなで作る、大人も子どもも自分たちが楽しむ夏祭り、自分の夏祭りを自分で楽しもうということを中心にしています。2000年から毎年開催し、今年で10回目です。2,000人弱の方が参加します。ゆりが丘団地で一番高いところに、海が見える公園という公園があります。そこからは仙台市の夜景等がよく見えます。そこでの祭りを名取市で一番標高の高い夏祭りという表現をしています。

いわゆるただの盆踊りではありません。ステージを中心とした野外音楽祭をやっています。出演者にはセミプロバンドから地元の学生バンド、フラダンス、舞踊、中学校の吹奏楽部、小学校の和太鼓とか、いろいろな人たちに参加していただいております。PTA有志の方、青少年健全育成会の方、郵便局、尚絅学院大学の学生さん、有志の方とかのそういう方々のコーナーもあります。それから、フリーマーケットとか野菜直売、ゲームコーナーとか各種屋台です。かなり盛大なイベントになっています。

普通の祭りは、大人たちだけが行って参加者に与える夏祭りだと思うのですが、我々はちょっと違ってきます。中学生、高校生、大学生がスタッフとして大体50名程度参加し、大人と同じことをします。子どもたちには単なる手伝いではなくて、細かい指示はしないで割り当てたら自分たちで考えさせて、自分たちでやらせるという感じです。当然横目で見えています。ステージ作成から始まって、すべて親父の会と子どもたちで共同作業をやり、一緒に動きます。

この祭りは資金ゼロです。すべて売上金で賄っています。儲けもゼロ、すべてボランティアです。これが成り立っているのは、おやじたちの情報網で県下一安く材料を仕入れるからです。おやじたちはいろんな会社にいますので、貴重な情報をたくさん持っているんですね。そこをうまく活用しています。

何回も打ち合わせをする団体もありますが、私たちは1回しかやりません。あとは電話とメールで確認するだけで、あうんの呼吸で当日を迎えます。これも10年間やってきた通常の月例会の成果です。お互いに考え方が分かる、やり方が分かるので可能なことだと思います。

祭りは14時間ぐらい続くのですが、ベースに流れているのは子どもたちと長い時間を過ごし、話をして同じ目的に向かって向かい合うということであり、祭りを通してお互いに得ることが

いっぱいあるんです。そこでは語り尽くせないような話があって。普段の家庭でもなかなかできないような話もしてくれます。

イメージがつかないので、ちょっと写真をご紹介します、これは夏祭りの風景です。左手がステージの、親父の会が誇る手づくりステージです。自分たちで全部手づくりでつくり上げます。ステージの基礎から始まって飾りつけです。右が今準備を始めたところです。暑い日に、これから10時間以上も続くよなという感じにいるんですけども、みんないい顔しています。

こちらがステージ中心の夏祭りの様子です。左上が小学校の和太鼓、それから右がみどり台中学校の吹奏楽です。こんな感じで、我々の意図を察してくれて浴衣姿で来てくれます。

それから、左下が女子高校生のバンドです、それから、右下が高校生のロックバンドと千差万別でいろんな方々が参加しています。

それから、これはトリ近くなっての松島ベンチャーズの様子です。いつも松島から駆けつけてやってくれます。

それから右下が、これも親父の会が誇る支援事業のよさこいチームです。これは店です。野菜も農家の知り合いの友達のおばちゃんに参加していただいております。我々は、もう全部ひっくるめて友達だってみんな引っ張りこみます。

それから、下がPTA有志の方。PTAとしてじゃなくて、その中から有志という格好でクレープコーナーをやってくれています。あと左側が健全育成会のコーナー、金魚すくいです。それから、右側が郵便局のゲームコーナー。それから、下が尚絅学院大学の学生さんがつくってくれたゲームコーナーです。こんな形で我々のことをかなり理解してくれる人たちが増えてきまして、協力体制を最近とってもらえるようになりました。

それから、冬のもう一つのイベントですね、「やき芋つくって遊ぼう会」です。これもテーマは特にないんですけども、本当はあるんです。それは「やけど、けがはオーケー、何事も経験」ということです。やけどをさせたり、けがさせたりするのを裏の目的としています。これは知っている人は知っています。これがおやじならではのテーマです。

ここに書いてあるように、頭ではわかっているんですけども、人間本来の基本的な体験が今の子どもは見ていて完全に不足しているなと思っています。やけどすれば熱いと、手を切れば痛いということを体験させて初めてそういうことを、基本的に頭ではみんなわかっているんですけども、実際にやらせてやろうということをやらせています。

遊ぼう会は2001年から7回開催しています。焼き芋もやるんですが、大工コーナーや遊びコーナーも併設してあります。これも与えるイベントじゃなくて、全部子どもたちにやらせます。

サツマイモを新聞紙，ホイルにくるんだりといろいろやるんですけども，マッチで火をつけることも全部子どもにやらせます。今の子どもたちは，結構火をつけられないんですね。

それから，大工コーナーですが，そこにはのこぎりと釘とを置いておいて，あとは自由にやらせます。聞いてきたら教えてやる，教えてやってもいいぞという感じで教えてあげます。落ち葉なんかも全部子どもたちに集めさせてやらせます。

この「やき芋つくって遊ぼう会」は，青少年健全育成会との合同開催を3回ぐらいやっています。その他の団体とも時々一緒にやっています。最近の子どもはみんなお母さんにやらせちゃうんですけども，自分でやらせることを主にしています。

これは火をつけてあおいでいる風景ですが，お父さんたちも生き生きとして頑張っている写真です。

あと遊びコーナーでは，ボールを置いて置いて，あとは自分たちで線引っ張って勝手に遊ばせます。材料と道具だけ置いておけば子どもたちがいろんなものつくっていきます。

さらに，支援事業としてよさこい支援をやっているという話をしました。もともとこれが始まった経緯は，地元の中学3年生が卒業記念に文化祭でよさこいを踊りたいけど教えてくれる人がいない，練習場所もないということからでした。はっぴ，鳴子もないということになりました。このころは大分親父の会が知れてきていましたので，「そうだ，親父の会に支援を要請しよう」ということで来たんです。私たちにすればやっとならんと「おやじに任せなさい」という感じでした。もう子どもたちに頼まれればすぐ動くのがばかおやじです。練習場の確保やはっぴの手配，親父の会の夏祭りの軍資金から少し支援しました。ただ，練習計画は自分で作成してやりなさいという方針でした。2005年に男子21名で結成されました。

最初に始まったときの中学3年生の練習が始まったときの写真ですが，私も一緒になって踊っていました。普通の運動部より厳しい練習をしていました。自分たちで決めて自分たちでやっているものですから。ただ，実際に任せるとやっぱりやるんですね。与えられると途中でやめますね。

よさこい活動ですけども，2005年においては当初目的だった中学校の文化祭に出て，素晴らしく受けました。それから，隣の団地の那智が丘夏祭りに出たり，ゆりが丘夏祭りに出たり。2006年には名取市市民の集いに参加しました。2007年も大体似ていますが2007年にはお寺に呼ばれ，お寺の中でやりました。お坊さんにもありがたいお話を聞いて，子どもたちは結構それを気に入っていました。いろんなことを考えた。また，2008年は成人式の参加依頼があったんですけども，定期試験とぶつかりこれを辞退したのはいまだに悔いが残っています。

子どもたちにも記念になったし、ここに至るまでのいろんな努力とか子どもたちの横のつながりとか、この子たちは当然高校生なんですけども、高校も違いますし、進学校もあるしそうじゃない方も、みんなそういうばらばら、普通なら高校になるとばらばらになるんですけども、結束してやったというところが一番よかったところだと思います。

我々はやはり、頭を使うよりも肉体で、子どもたちとなるべく一緒に活動することを主体にしています。とにかく一緒にやる。そして一緒に話そうというのを主体にやっています。

普段、朝なんか起きない子どもも、我々が動く朝早く来るんですね。みんないい顔して参加してくれるんです。何か動けば、子たちはいろいろな年代の人たちと話す機会が増えるんですね。だから、イベントがどうのこうのではなく、その中でいろいろ話す機会が多いことが最高のことだと思っています。家で料理なんかしたことない子どももおやじたちが仕向けるとやるんです。こういう新たな面が生まれます。

もう子ども、子ども、子どもですね。我々の宝です。先ほどから皆さんも言っていますが、地域之宝、我々の宝です。この子たちにいろいろ夢を与えたり、いろいろ話す機会を増やしたりしたいという思いがあります。大人と子どもは同等であります。我々が子どもだったころに、大人に認められるというのが一番うれしいという思いを我々メンバーは分かっていますので同等にやらせます。子どもは満足します。また自分たちで何かしようとするんです。そこが大切だと思っています。

子どもたちを見ていて、余り仰々しい話ではありませんが親父の会の活動を見て、子どもたちの中から次代のリーダーが出てくれば地域の未来はあるのかなと思います。これは結構大切なところなんです。今我々が一緒に活動している子どもたちの中からリーダーが出てくれば、やっぱり地域は元気であると思っています。

最後ですが、我々は子どもたちといつも一緒に活動しています。小さいころから付き合いを持っていますので、我々とともに何かしようとする来てくれて手伝ってくれます。おやじが動けば子どもはついてくるのです。やっぱりおやじというのは大きいんです。これが長年やっていて感じることです。

ちょっと長くなりましたけど、これで終わります。ありがとうございました。

石垣政裕 千葉さん、どうもありがとうございました。

本当に全部を見せていただきました。本当は現場の子どもたちの笑顔というのもっと素晴らしいんだろうなと思います。その夏祭りがあったら、是非皆さん出かけていって、子どもた

ちのそういう顔を見ていただきたいと思いました。昔からお祭りに行くと子どもたちは本当に喜んでいましたね。

同じ10年、寺岡おやじの会、ここも地域でいろいろと活動していると思うんですけども、その様子を教えていただきたいと思います。

伊藤淳 寺岡おやじの会の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

寺岡おやじの会の活動の紹介をさせていただきます。

内容的は、寺岡おやじの会の内容、主催行事、地域での活動をお話しさせていただきます。

まず、寺岡おやじの会の紹介です。寺岡おやじの会は、仙台市の泉パークタウンの寺岡小中高区のおやじたちから成る任意団体です。最近、泉プレミアムアウトレットができたあたりです。紫山と寺岡という地域で1つの学区になっていまおり、ここの学区にいるおやじたちでの集まりになっています。

メンバーは、世話人と言っておまして30代から70代、非常に幅広い年齢で構成されています。先ほどのゆりが丘さんでもあったように、中には定年退職されて、その後、地域にこういうお父さんたちの集まりがあるので入れてくれと来る人もいます。中には、実はまだおやじじゃないく結婚もしていないんだけどこういう地域の男たちの活動に非常に興味があるからまぜてくれという若い人間もいたりします。40歳ぐらい年齢差がある非常に幅広い年代になっています。今、大体50名ぐらいが在席してまして、今年で10周年を迎えております。

規約とかは一切ないんです。しかし、時代を担う子どもたちの触れ合いとおやじ相互の交流を通して、地域のよさを実感できる新たなふるさとづくりを目指すという活動理念があります。

このふるさとづくりというのが我々のキーワードになっているような気がします。私自身も小さいころ、転勤族であっちこっち転校を繰り返して、自分自身のふるさとってどこなんだというとならないですね。では、今の子どもたちはどうなんだろうとこう考えたときに寺岡も紫山も新興住宅地ですので、もともとそこから古く住んでいた、代々住んでいるという人もおりません。転勤で来られる方もいらっしゃいます。特に紫山は非常に新しい団地ですので、そこに暮らしている子どもたちが大きくなってから、寺岡とか紫山が自分たちのふるさとだよと言ってもらえるような地域をつくりたい、そのための一つの活動のお手伝いをおやじの会でできればと思っているわけです。

主には子どもたちの交流することですね、キャンプに行ったりハイキングに行ったり、さらにはものづくり体験等を行っています。

もう一つは地域との交流です。ほかの町内会であったり、小学校、中学校だったり、市民センター、児童センター等そういう団体のお手伝い、夏祭りなどへの参加、緑化活動で、おやじの会がおやじたちの親睦も深めながら地域交流の場となっているところです。

次に、主催行事について御紹介します。

春夏秋冬やっています。春は山に登ったりハイキングをしたりと太白山や泉ヶ岳に登ったりしています。去年は地引網をやりました。地引網自体は地元の漁師さんをお願いしてやるんですけど、ただ魚を捕るだけでは面白くないので、おやじの発想で魚拓を取ろうということになりました。しかし、魚拓ってどうやってとるのが誰も知らなかったので、急遽魚拓のとり方を調べました。魚拓を取っても洗えば食べられるんですね。あと、夏は誰も入ってこないようなシークレットビーチを見つけてみんなで遊んだりとか、3年に一遍ぐらい、学校の協力をかりて学校に泊まろうということも行っています。子どもたちにカレーをつくらせてみんなで食べています。その中でも、災害時の体験と称して、お役所からアルファ米を無償でもらって御飯を炊いてみたり、災害時は洗いものを少なくするようにとお皿にサララップを敷いて食べてみたりとかそんなことをやりながら夜は肝試しをして体育館でみんなでざこ寝をします。

秋は秋の一大イベントで、寺岡・紫山オリンピックというものを行っています。こちらはおやじの会ほか町内会とか、いろんな各種団体で実行委員会をつくってやっています。2008年は500人以上の参加者がありました。幼稚園からお年寄りまで、地域の全員、誰でも参加できます。昔、学区民運動会というものがあつたと思うんですけども、走ったり跳んだりとか体力勝負の内容だけではなく、幼稚園児でも遊べるゲーム、中学生でも楽しめるような体力を使った競技などいろんな競技を選択方式でできるようにしています。こちらの1つ特徴としては、中学生が非常に多く参加してくれるということです。中学生も、小学生も、お年寄りも交ざって地域の行事に参加する大きなイベントになっています。中学校からも協力を得ていて、この日は部活を休んでオリンピックに参加できるように働きかけをしていただき非常に大きなイベントになっています。毎年毎年参加者が増えています。

冬は泉ヶ岳で歩くスキーをやるのが恒例になっています。今年も3月1日に行く予定になっています。歩くスキーは普通のゲレンデスキーとは違って、林の中を歩いたり、ノウサギの足跡を見つれたりとか小さい子どもでも大きな大人でも楽しめる非常にいいイベントになっています。

次に、地域活動の紹介をします。1つがおやじと地域の集いです。同じ地域の中に、町内会をはじめ小学校、中学校、児童センター、幼稚園や保育園、子ども会等があるんですけども、

集会所に、町内の様々なところのトップの方々にお集まりいただきまして、おやじたちがホストになって親睦会をやるんです。こういう場合、堅い集まりはあるのかもしれませんが、砕けた地域の諸団体が全部集まるというのはなかなかないのではないのでしょうか。おやじがプロデュースして、互いにいろいろ顔を知って情報交換をするということを年1回やっております。

あと、夏祭りです。先ほどもゆりが丘さんでもあったように、寺岡でも寺岡と紫山の2回、夏祭りがあり、出店しています。紫山の祭りでは、真夏の暑いときにラーメンを出しています。最初は賛否両論だったんですけど、今ではこのおやじのラーメンを食べないと夏祭りの気がしないということで非常に好評で、今年もやってくれと止められなくなっています。

それ以外には、清掃緑化活動をしています。寺岡の中に幾つか公園があるんですが、その公園に花を植えたり木を切ったり、ごみ拾いをしたりと清掃活動をやっています。それだけでは面白くないので、合わせて芋煮会をやったり餅つきをしたりしています。まずみんなでごみを拾ってきれいにしたら芋煮会で芋煮を食べましょうという流れで行っています。

それに、コンサートを寺岡の市民センターさんが企画しているんですが、実行委員会のメンバーには寺岡おやじの会も入っています。地域の中学校の吹奏楽、白百合のオーケストラ、あとはその地域の合唱のグループやサークルがコンサートをやっています。おやじたちが主にステージの裏方、記録、撮影などを分担してやっています。今日も着ていますけど、このオレンジ色のTシャツが我々のイメージカラー、目印になっています。今のような活動の何かのときにオレンジ色の団体を見つけたら、それが多分我々だと思います。

さらに寺岡おやじの会、ホームページとブログがあります。もし興味がある方がいらっしゃいましたら、お家に帰られてから見ていただけるとうれしく思います。ホームページでこれまでの活動とか、日々のタイムリーな話題をブログに掲載しています。

以上で、寺岡おやじの会の活動の紹介を終わらせていただきます。ありがとうございました。

石垣政裕 どうもありがとうございました。

何か、このゆりが丘親父の会と寺岡おやじの会の報告を聞くと、町内会と学校と青年団と、みんな何か一緒におやじの会になっているんじゃないかという印象になってしまいます。おやじの会は裏に回っていますよね。コンサートなんかほとんど舞台のセッティングをおやじの会がやって、前には余り出てこないですよ。あの辺のところなんかは、寺岡は非常に上手ですね。信頼されている一つの大きな要因かなと思っています。

寺岡おやじの会、またゆりが丘親父の会を見ていると、それぞれの理想とすることは違って

います。しかし、非常に地域のコミュニティーをしっかりとつかんでいるような感じがしているんです。

今、お二人の報告を聞いていまして、地域の中で、おやじだけではなくてその周りの人たちが参加してくれているということがありました。ではそのお母さんたちといいですか、地域からおやじの会を見ている人たちというのはどんなふうな人たちがいるのでしょうか。今日は子育てサポートリーダーでのお二人に来ていただいております。その方々から、今報告してもらったことも含めて、取り組まれている活動の御紹介をしていただきたいと思います。

亘理で活動していらっしゃいます佐藤徳美さんにまず御紹介いただきたいと思います。

佐藤徳美 では皆さん、改めましてこんにちは。亘理町の子育てサポーター、それから、県のサポーターリーダーをさせていただいております佐藤徳美と申します。簡単なレジュメをきょうつくってききましたのでご覧ください。

今、おやじの会の素晴らしい活動報告を聞きまして、お父さんたちもすごく頑張っているんだなというのを実感しました。おやじの会というのがあるのは耳にはしていたんですけども、実際どのような活動をしているのかを初めて知ったところでした。私たちお母さんたちも、お母さんにできるということで活動しております。子育てサポーターという名前で活動しております。その活動を紹介したいと思います。

その前に私の自己紹介をします。子どもが高校1年生の長男と中学1年生の次男、それから一番下が女の子で小学校3年生の3人おり子育て真っ最中です。小中高の子どもを持つ親としてお地域で活動しているところです。

それから、肩書きをいっぱい並べるわけではないんですけども、母親クラブに所属しております、お話の会をしたり、亘理町で主催する事業などに託児の仕事を頼まれたり、小学校、中学校のPTAの役員をやったり、スポーツ少年団の指導員もさせていただいております。それから、男女共同参画の団体にも入っているなど私自身いろんなところでネットワークをつくりながら、この子育てサポーターの活動をしているというところです。

では、資料に沿ってちょっとお話ししたいと思います。まず、子育てサポーターという言葉を目にしたことがある方はいらっしゃいますか。今日、初めて聞いたという方はいらっしゃいますか。(多数の挙手) やっぱり余り知られていないのかなという感じですね。

亘理町では平成12年からこの子育てサポーターを養成しました。今年で9年目の活動になります。県のサポーターリーダーは平成16年からですので、5年、6年になるんですけども、

地道に活動していてもなかなか知られていないのが現実というところです。今日ここにいらっしやってサポーターって何だろうと思っっている方もいらっしやると思うので簡単に活動を紹介したいと思います。

「サポーターってなに？」と一番先に書きましたけれども、行政と住民のパイプ役です。子育て支援の場に出てくるお母さんたちが、役場の人だと何かちょっと話しにくいけれども、ちょっとした相談ができたり、うちの子今こんな状態なんだけどどうかしらというのをお話しするだけでも楽になったりします。私たちは、専門的な資格とかを持っているわけではないんですが、そういう中間にたつ立場で活動させていただいています。

それから、保護者、親子、子育て支援の場に出てきてくれている方たちに、学ぶためのサポート役を行っています。お母さんたちの心が楽になればいいかなという思いで、今年度は18名で活動しています。

活動の経緯は今お話ししましたが、私が平成12年度に子育てサポーターになったときは、一番下の子がまだ9カ月だったので、おんぶしながら活動を始めました。同じぐらいの子どもを持つお母さんたちと一緒に同じ目線でお話ができるというのが、私が一番活動していてうれしかったことだと思うので、おんぶしながらで大変なこともたくさんあったんですけども、9年間続けてこられたのかなと思っております。

生涯学習課のもとで私たちは活動させていただいています。子育て支援の場といってもただ楽しいだけの子育て支援の場ではなく、私たちサポーターも学びながら、そしてそこに出向いてくださるお母さん、子どもさんたちも学んでもらえる場がちょっとあればいいのかなと考えております。「知識や経験を生かし他人への学びを支援する」なんて大それたことを書いてありますけれども、そういうことをしながら仲間ができて自分たち自身が学べるということがとても楽しいと思っております。

活動内容に子育て支援事業の企画運営があります。これは私たちサポーターの一番メインな活動です。生涯学習課の主催事業ですが、私たち子育てサポーターが企画運営しております。3歳児のお子さんを持つご家庭を対象に「三歳児の世界 学習講座」を行っております。これは巨理町では昭和57年から続いている生涯学習課の大きな事業だったんですが、平成12年度からは、私たちサポーターが中心になって企画運営をさせていただいております。

3回講座の内容です。親子でリトミック、親子でふれあい体操遊び、それからお母さんたち向け保護者向けの講話を行っています。お母さんたち、子育てについての専門の先生をお招きして講話をしていただいています。そのときは子どもさんたちの託児をしております。3回の

講座が終わった後で、同じ年齢の子どもを持つお母さんたちなのでサークルを立ち上げたらどうかというお声がけをしますと、サークルが立ち上がります。そこでできたサークルの支援も私たちが行ってあります。月2回サークル活動を行っているんですけども、その場に出向いていってお母さんたちとまた一緒にお話ししたり、子どもさんたちと触れ合ったりしながらサークルの支援活動もしております。

それから、「子育て支援事業のお手伝い」ということで、生涯学習課以外の支援事業にもお手伝いに行っています。巨理町では役場内の横のつながりがとてもできています。私たちがサポーターになる前までは保健課とか生涯学習課が同じような事業をやっていたようですが、連携をとるようになって私たちは保健課の事業に出向いていってお手伝いをしたり、本の読み聞かせをしたり情報提供などをしております。

特に乳幼児相談という保健福祉課事業があるのですが、集まってくるお子さん、それからお母さんたちに必ず絵本を読み聞かせしております。

また、「絵本の紹介」ということですが、私たち子育てサポーターは、絵本はとても素晴らしいということをお母さんたちにお伝えしたいと考え、子育てサポーターのお薦め本というのを作っております。私たちサポーターが実際に子育てをしているときに子どもさんに読んであげた絵本を選んで紹介しています。レイアウトや印刷とかもしております。実際に絵本を読んであげて、この冊子を親子に差し上げます。こういう素晴らしい絵本がいっぱいあるんだよということを紹介しております。

それから、町主催の子育て支援事業の情報提供をしております。町ではいろんな子育て支援の事業をたくさん行っています。しかし、内容がなかなか伝わらなかったり、幾ら広報紙に載せたりチラシをまいてもなかなか集まっていけないという実態がありました。そこで私たちがいろいろな子育て支援事業に行ったときに、今度はこんな事業があるんだよ、この先生はとていいお話してくれるんだよ、私たちサポーターが企画した事業なんだよ等というふうに、口コミでお母さんたちに情報提供などをしております。現在、子育て支援事業にはたくさんの方が足を運んでくれるようになりました。

それから、家庭教育手帳の紹介をしております。皆さん、家庭教育手帳はご覧になったことがありますか。今日初めて見たという方はいらっしゃいますか。(多数の挙手)結構いらっしゃいますね。これは文部科学省で発行しているものなんです。お子さんの年齢に合わせて乳幼児編とか小学校低学年向き、小学校高学年から中学校の保護者向きというふうに3冊分かれております。子育てに関するコツが載っている手帳で各家庭に配布されているはずなんですけれど

もなかなか浸透していないということもあります。そこで、私たち子育てサポーターはこういうことが書いてあるんだよ、読んでみませんかと紹介させていただいています。

手帳の内容が見えにくいので大きく拡大を試みたり、中身をクイズ形式にしたりしています。私たちは絵本の紹介もしていますけれども、お父さん、お母さんたちに絵本も読んでほしいなと思って紹介しています。

子どもは遊びが仕事です。お話しいただいたおやじの会の皆さんたちにはいっぱい遊んでいただきたいので家庭教育手帳も読んでもらえるとすごくいいのではないかと思います。

お母さんたちはお母さんたちならのできるささやかな部分でもあるんですけれども、こうやって活動させていただいております。

石垣政裕 ありがとうございます。

三歳児の世界ということで幼児期の子育て支援をなさっていますけれども、この時期というのは、お父さんたちは結構若くてばりばりと仕事をやらなければいけないというので、比較的家庭を余り顧みないという人が多いように思います。少し子どもたちが小学校なんかになると、俺も少しおやじらしいことをしなきゃいけないなと思うようになるように思います。

子どもが小さいときというのは、お母さん方が1人で悩むということもあるのかなと思うんですけれども、佐藤さん、どうでしょう。

佐藤徳美 9年間この「三歳児の世界 学習講座」を企画運営させていただいて感じることもなんですが、参加者は初めは100%お母さんでした。しかし、最近はお父さんの参加が増えました。そういう意味ではお父さんたちの参加も随分、多くなったんだと思います。私たちがチラシをつくるときにも、お母さんたちだけじゃなくて、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんにも参加してくださいねと声かけをしてきました。最近はお父さんと子どもさん、それからお父さんとお母さん3人でとか、そういうふうにお父さんの参加がふえてきたのはすごくいいことなのだと思います。随分時代も変わってきているのだと感じています。

石垣政裕 千葉さん、スライドなんか拝見していますと、比較的小学校とか中学校、あるいは高校生ということが活動の中に入ってきていると思います。しかし、まだ地域の中に入り込めないお父さんたちがいるのですが、どのような状況でしょうか。

千葉良一 親父の会というのはやっぱり、先ほどの寺岡さんの絵を見ていても1つ気づいたのは、今、40代も忙しいですが、50代、60代は結構パワーを持っているんです。寺岡さんと同様にうちの構成も30代からなんです。ですが20代というのはなかなか入ってこなくて、そういう人たちをどう巻き込んでいくかというのは少し課題になっています。だから、そういう場に引っ張り込むためには、いろいろなイベントの中で、参加した人のお手伝いをもらったときにどうですかという感じ誘います。1日一緒にいますから、話している中で、じゃという感じでどんどん広げていくような手法を我々はとっているんです。

石垣政裕 伊藤さん、寺岡ではおやじたちがいろんな活動をなさっていますが、地域の中でのつながりというのは、例えばどんな形でサポートが考えられますでしょうか。

伊藤淳 地域の中では児童センターが非常に大きな役割を持っていると思います。小さい未就学の子どもたちが児童センターのイベントに参加したり、そのイベントのお手伝いで寺岡おやじの会が入ることもあるんです。そうすると、確かにいつも一緒に活動している我々よりも若いお父さんたちが子どもと一緒に来ています。その中で、やっぱり子どもと親と両方一緒に参加型のイベントだと、そのお父さんは非常に元気に子どもと一緒に活動しているんです。だから、そういう機会がふえると、地域としてはそういうお父さんたちも入りやすいと思います。

石垣政裕 ありがとうございます。

ちょっと紹介がおくれましたけど、鈴木美恵子さん、鹿島台のほうで子育ての支援をやられているということで、そのお話を伺わせていただきたいと思います。

鹿島台は先ほどちょっと御紹介しましたけど、仙台市内のおやじの会が押し寄せていって、宮城県のおやじの会で一緒に遊ぼうというので遊んだことがありました。そのときに大変お手伝いいただいたということもあります。非常に子育ての盛んなところ、やろうとする気持ちの強いところだというふうに思っています。よろしく願いいたします。

鈴木美恵子 皆さん、こんにちは。鹿島台の鈴木と申します。

今日、秋田からもおいでになっている方々がいらっしゃるみたいですが、私は昨日から秋田で、ボーイスカウトのトレーナー集会というのがございまして、先ほど始まる前に戻ってまいりました。

私は、平成17年に研修を受けてから、県の子育てサポーターリーダーとしての活動を始めさせていただいております。

鹿島台家庭教育推進協議会は、平成16年から18年までの3年間、民間主導で前の会長さんと共に取り組んできました。ところが、諸事情があり一たん休止となったのです。そのときに、託児ボランティアの「まゝま」という団体も作っておりましたので、平成19年度はその「まゝま」に参加した5名で1年間託児ボランティアをしていました。

活動内容としては、総合健診、子宮がん検診、乳がん検診などの検診時の託児です。子どもたちを一時的に預かって、若いお母さんたちにも検診してもらおうということで、保健センターより依頼を受けて活動しておりました。

ところが、資金もありませんし、現在、私たちは活動するときに赤いエプロンをしているんですけれども、その赤いエプロンをみんなで揃えたいねという話をしている頃の1月にボーイスカウトで講演会があったんです。そのときに、講師で来ていただいたのが生涯学習課の先生でした。それで、先生がいろいろなお話をされて、最後に県の取り組みということで子育てサポーターリーダーのお話をされたんです。話が終わりましてから、いや私も鹿島台の子育てサポーターリーダーとして活動していたんですという話をしましたら、やる気があるならこういうのがあるから申請してみたらどうかということになりました。多分、先生にお会いしなければ取り組まなかったかもしれませんね。

今年、その「まゝま」のメンバー5名と、地域のいろいろな方々、のびのび生涯学習委員会という地域づくりの委員会、長寿会、手をつなぐ育成会、子ども会育成会連合会、婦人会、保健士、幼稚園・小学校の先生などメンバーは全部で17名、協議会のメンバーは17名いるんですけれども、一人一人お願いをしまして、こういうことを始めたいんだけど協力してもらえないでしょうかということをお話ししまして立ち上げました。

それで、その下に家庭教育支援チームを置き、15名メンバーが名を連ねております。一定期間専従するチーム員というのは6名おりまして、そのほかに更生保護女性会の方たち、更生保護女性会といっても半分ぐらいは民生児童委員も兼務されている方たちです。この方たちにもお手伝いをいただいて事業を展開してまいりました。

先ほどおやじの会の方たちが地域と連携して随分活動なさっていましたが、私たちの地域にもいろいろな団体はあるんです。しかし、なかなか手をつなぐということがないものですから、支援を行う側と支援を受ける側が、とにかくみんな手をつなげるような場をつくりたいという思いでこの協議会を立ち上げました。

ちょうど鹿島台町から大崎市になって今年で丸3年が過ぎたんです。協働のまちづくりというのがスローガンになっております。地域内で地域づくりのワークショップも開かれていまして、とにかく手を結んで、一つの事業をするにも何団体かが集まってやろうという動きになってきました。

協議会を立ち上げるときには、一番初めに行政の協力がなければ絶対うまくいかないというのは、前の3年間で感じておりました。そこで、今回総合支所の支所長さんのところに話を持っていました。御協力していただけるということでしたので、担当者と活動する部屋をお願いしました。現在、公民館の応接室で子育て相談室を月に2回、第1、第3火曜日に行っております。

それから、食育講座ですが、食育についての取り組みが各幼稚園で随分違っていたのです。それで、園長先生に何をしたいのかということをお聞きしまして、押しつけにならない計画を立てました。ある幼稚園では親子でずんだだんごづくりをやりたい、ある保育園では祖父母と一緒に鏡もちをつくってみたいということで、その幼稚園、保育園に合わせたかたちで行いました。

それに、いきいき子育て講座も行っています。これは公民館に来る小さいお子さんを連れたいお母さんたちを対象に、子どもたちには絵本の読み聞かせ、紙芝居、折り紙などを提供しまして、お母さんたちはちょっとのんびり、ゆっくりした雰囲気味わってもらいたいなと思い、お茶の先生をお呼びしまして茶道に触れる機会を提供したんです。そうしましたら、三、四歳の子どもさんたちも一緒に飲みたいということになりました。いつも走り回っている子どもたちが行儀良くお茶を飲んでいる姿に、地域の人たちと触れ合うことで子どもたちがもっともっと大きく育つんだよというのをお母さんたちに実感してもらえたように思いました。

それから、「文化財を学ぼう」ということで、小学校の3年生か4年生の副読本に鎌田三之助さんのことが書いてあるのがあると思うんですけれども、先人の郷土に対する思いを、子育てを鹿島台でしている親に分かって欲しいという思いがありましたので企画いたしました。

それから、私たちも地域との連携を考えています。共催・後援事業として社会福祉協議会、子ども会育成会、図書ボランティアの方たちと協力して、一つ一つの事業を展開しております。その時には共催とか後援だから当日だけお手伝いすればいいということではなくて、企画の段階から会議に入らせていただいて、活動させていただいております。

石垣政裕 ありがとうございます。

随分いろんな団体が一緒になって、この基盤形成事業を実施なさっておりますけれども、この中に例えば青年団とか、いわゆるお父さん予備軍とか、お父さんとか、そういう方たちの参加というのはどんな形になっていますか。

鈴木美恵子 なかなかお父さんの参加の機会はないのですが、地域づくりの「のびのび生涯学習委員会」、これは生涯学習の公民館に集う団体の委員会なんですけど、この中にはスポーツ少年団をなさっている方などもいらっしゃるんです。この団体に、私もボーイスカウトとしても入っているんですけれども、平成21年度には、花を種から育てる運動、昔遊びみたいなこともやりたというというの計画を立てております。その時には、お父さん方の参加もあると思います。

石垣政裕 もうその辺のことをどしどし、地域のおやじという人たちはそういう活動の中に取り込んで行ってほしいなというふうに思いますね。

おやじの会も支援していただけると、子育てのさらに輪が広がるのかなというふうに思いますけれども。

先ほどちょっと、鈴木さんのお話の中にあっただけですけれども、要するに行政との関係の中で子育ての事業展開ということがあったのかなと思いました。例えば事業の切れ目が縁の切れ目みたいなかたちになってしまうのではないのでしょうか。先ほどの「まあま」という託児ボランティアのグループが、それでも何か続けたいという気持ちが大事ですね。

多分伊藤さん、寺岡なんかでは行政からは余り支援というか、むしろしてほしいとこっちら言ったりなんかするんですか。

伊藤淳 行政に対して直接というのは余りないです。

石垣政裕 資金や何かは全部自前で調達しているのでしょうか。

伊藤淳 資金は、自分たちが企画して主催しているイベントは実費をその都度集めて、大概ちょっと赤字ぐらいの予算組みをするんですね。赤字分は我々の飲み会の残金で補てんしていると、そんな運営をしています。

石垣政裕 寺岡・紫山オリンピックなんて町内会の運動会に匹敵するような運動会をやっているわけですが、それなんかですとお金がかかりますでしょう。

伊藤淳 オリンピックの場合は実行委員会を結成してまして、各町内会などから一部協賛金を集めています。

石垣政裕 そういうところはしっかりとネットワークを組んでいるんですね。

伊藤淳 商品とか参加賞とか、そういうものについてはどうしても費用が、コストがかかるので必要最低限の分だけを準備します。恐らく労務費は全部赤字で、材料費の分が何とか調達しているというのが実態でないでしょうか。

石垣政裕 千葉さん、名取のほうでは、比較的自分が後援をしたいという仕組みをつくってやったりということじゃなくて、何かほうっておいて子どもたちにやってもらいたいかなんですね。

千葉良一 そうですね。我々も10年の間にはいろいろ試行錯誤があったんです。普通の会社にいる方は新入社員が入ってきて多分感じていると思うんですけども、やらせればできるんだけど自分たちがやるということができないんです。

それが一流大学と言われる人たちでさえもみんなそうで、そういうのを考えていると、やっぱり今我々が何をやらなくちゃならないかとなります。そういう与えるやり方じゃなくて、自分たちにやらせるとか、マニュアルにないこととかそういうことが発生した場合にどういふことをやるとか、そういう本能的なことが、一番基本的な、人間として本来生きるために必要な部分を我々の活動の中で与えたいという思いが強いんです。

石垣政裕 佐藤さん、例えば若いお母さん、乳幼児を持ったお母さんたちがどんなふうこれから自分が子育てをしていく、あるいは友達と手をつないでいくか、千葉さんのおっしゃったようなことで御意見ございますでしょうか。

佐藤徳美 「三歳児の世界 学習講座」を受講したお母さんたちが立ち上げたサークルがあ

るんです。そのサークルは本当に自主サークルで、私たちサポーターは一応お手伝いには行くんですけども、活動内容とか当番を決めて内容はどんなことをするかとか、どこに出向いていくとか、そういうのは全部お母さんたちが企画しているんです。初め何していいかわからない、みんなの前で話すのが下手だから嫌だ、そういうふうに言っているお母さんたちも、1年、1年半ぐらい活動していくうちに自信を持って、自分ができるアイデアをいっぱい出し合っています。

そうすると、そういうお母さんたちが幼稚園、小学校に上がると何かの役員を自ら引き受けてくれたりします。そういう意味では今、千葉さんがおっしゃったように、言われればやる人はいっぱいいるんですけども、自分たちからなかなかやるということができないなと私も以前は思っていましたけど、そういう本当にちっちゃなサークル一つからなんですけど、自分たちがやるということの喜びみたいなものとか、仲間に支えられるとか、そういうことで本当に小学校の役員を引き受けてもらえたときにはすごくありがたいなんて私も思うんです。そういう意味で人材も育っていくのだと思っております。

石垣政裕 ありがとうございます。

伊藤さんからお聞きしたいと思うんですけども、先ほど、子どもを持っていない若い人も関心を示しておやじの会に参加しているなんて話もありましたけれども、地域の中でこれから子どもを持つというふうなお父さん予備軍、お母さん予備軍みたいな人に対してはどんな働きかけがあるのでしょうか。

伊藤淳 直接的に我々がそういう年代なりに働きかけているかどうかというと、難しいところはあると思うんです。いずれ今の小中学生がそういう年代になっていくというそのつながりを考えたときには、やっぱりその地域を子どもたちが愛しているかどうか、親になり切れない子どもたちというか、子どもと親の間という世代がその地域で暮らしていく中でどれだけその地域に愛着を持てるか、思い入れがあるかというあたりというのは、非常に重要な部分だとは思っていますね。

これは体験談なんです。オリンピックをやったときの最後の後片付けのときに、スタッフは当然最後は後片付けをするんですけども、言われていないけど中学生たちが一斉にほうきを持って掃除をし始めたということがあったんですね。そういうときに、その子どもたちはこの地域のイベントの最後に自分たちも何かしたいという一つの思いが多分あったと思うんですね。

そういう地域に対する思いとかというの、その子どもたちがいずれ大人になって、この地域に住むとなれば非常にいいし、またそこで仕事をしてくれるんじゃないかなというふうに私は考えます。

千葉良一 それに関連してちょっと話したいんですが、おやじの会の活動は特に主体が小学生や中学生あたりじゃないですか。そうなってくると、抜けているのが高校生、大学生、それから今言ったようなお父さんになる寸前の子たちなんです。そのことに我々はだんだん気づいてきて、さっきの夏祭りのようにあのようなところに連れ込んで、それこそ実地教育です、いろんな話するんです。将来どうするとか。そういうことが結構、後々きいてくるんじゃないかと思うんです。

だから、今お母さん方もなかなか忙しい、そして男の子だと高校生になると言うこと聞かないんですね。中学生まではサポートするんだけど、それ以上の高校生、大学生、それからそれ以上のところが全く抜けるんですね。だから多分、本来なら大人になって自分のふるさとを考える時期に考えないから、ふるさとというのを思わないんです。そこが何か抜けているような気がするんです。だからそこを少し埋めるように、今、ささやかながら少しやっているわけです。それも少し皆さんにも、目の前じゃなくてその後も少し考えてもらえるといいのだと思います。

石垣政裕 ありがとうございます。

本当はここも時間をかけてやりたいんですけども、ちょっと時間がなくなったので、討論をこの辺で切りたいと思います。この討論は本当にもっと深くやっていきたいなと思いますけれども、ぜひ、もし地域の中に、地域に帰られてこういうディスカッションをもっとやってみたいということがありましたら、ここにいらっしゃるパネリストの方々に連絡していただいてもよろしいですし、あるいは近くにおやじの会や子育てサポーターの方がいらっしゃいましたら、その人に声をかけて、ぜひこのことについてはお話ししたいなということを企画していただきたいなと思っています。

これで子育てトークを終わらせていただきたいと思います。参加の皆さん、どうもありがとうございました。